

## 事業報告書 (HP 公開用)

## 【DVがもたらす心への影響】

日 時	平成 29 年 3 月 20 日 (火) 14:30~16:30
目 的	住民と接する機会の多い医療機関・福祉事務所・保健所・学校・保育所等の職員を対象に、必要な実践的な手法や情報を提供し、被害者の人権、DVの特性等に関する理解を深め、被害者を適切な援助の場へ導くために必要な知識を得ることを目的とする。
対 象	医療機関・福祉事務所・保健所・学校・保育所・幼稚園等の職員、教育関係者(養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)、相談員、関心のある方
講 師	竹下 小夜子(たけした さよこ)氏 (精神科医 さよウィメンズ・メンタルクリニック院長)
会 場	沖縄県男女共同参画センター「ていある」 1 階 ホール
定 員	100 名 ( 申込者数 : 94 名 )
受講者数	89 名 ( 女性 : 79 名 男性 : 10 名 )
講演内容 (概要)	<p>精神科医の竹下小夜子氏が「DVがもたらす影響および被害からの心理的回復について」をテーマに、関心のある方や、医療や教育関係者、相談員を対象に講義した。</p> <p>初めに、DVは「パートナー関係における暴力」で、「パワーとコントロールがその本質」と説明し、内閣府の調査データなどをもとにDVの現状を伝えた。暴力をめぐる誤解や偏見が被害者へ二次加害を及ぼし、暴力を容認する社会を作っていると話し、なくすことが必要だと強調。暴力をめぐる誤解や偏見について丁寧に解説した。</p> <p>次に、暴力被害が及ぼす精神科疾患や身体への影響、子どもへの影響と、被害からの心理的回復について説明。心理的回復を支えるものに「被害者に有力化(エンパワメント)を行い、他者との新たな結びつきを創ること」、「外傷体験により損なわれ歪められた心的能力を、他の人々との人間関係を築き上げる中で回復させていく」ことを挙げた。</p> <p>実際の支援では、DVや虐待被害をうち明けられたときに伝える4つのメッセージ「正直にうちあけてくれて良かった」、「あなたは悪くない」、「あなたは一人ぼっちではない」、「力になりたい」やセイフティ・プランを明確にする重要性を伝えた。</p> <p>また、「虐待の連鎖」が強調されることに批判を加え、暴力を拒否する道を選択する人が多いこと、成長期の良き友人、良き教師、良き本との出あいが幼児期の親子関係や母子関係より大きな影響を及ぼすという指摘や、暴力を選択する、しないの違いについて臨床家アリス・ミラーの「誰か一人でもいい、その人のほんとうの気持ちを理解してくれる人がいてくれたかどうか、決定的な違いを生む」という指摘を紹介した。</p> <p>最後に心的外傷後の成長(Post-traumatic Growth)を遂げた方たちについて語り、「過去は大きな影響を及ぼすが、私たちの現在や未来を縛りはしない、人間はクリエイティブな存在だ」と結んだ。</p>
受講者の声 (一部抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育を受けてきても沢山の誤解があったことに気づけてとても良かったと思いました。</li> <li>・貴重なお話、ありがとうございます！具体的なお話もたくさんあり、とても分かりやすかったです。</li> <li>・希望につながる講演でした。ありがとうございます。</li> </ul>
主 催	沖縄県・(公財)おきなわ女性財団